

三 建 建 第 3 8 2 号

平成20年10月22日

国土交通省道路局長 殿

三豊市長 横山 忠始



今後の道路行政についての意見・提案

別紙のとおり意見・提案いたしますのでよろしくお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

香川県三豊市

本年5月13日に閣議決定された道路特定財源等に関する基本方針において、一般財源化が決定されたところであるが、都会の交通手段の多さに比べ、地方の交通手段は道路が主な手段となっている。道路は、豊かな生活の実現と活力のある地域社会の形成に欠くことのできない、最も重要な社会基盤施設である。地方の経済活動の活性化の見地から現在実験的に実施している高速道路や本州四国連絡道路の割引制度を恒久化することを要望する。また、地方道の整備は、まだまだ不十分であり、特に交通安全対策、生活道路の整備等道路整備に対する地域住人のニーズは依然として高く、安全安心が実感できる地域社会の実現には、その整備充実は欠かせないものである。その整備を図る上で、財政状況の脆弱な地方自治体にとっては、地方道路整備臨時交付金制度の継続と現在国が負担している55%の負担率のアップを要望する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－１ 地域の現状と抱える課題

香川県三豊市

○ 現状

本市は高松自動車道、国道１１号、国道３７７号が走り、南東部には、南北に国道３２号が走っており、幹線交通軸を形成している。

国道１１号については、一部四車線化、国道３２号は新猪の鼻トンネルにそれぞれ本年度より着手となる運びとなりましたが、早期完成を望まれております。

しかしながら、全体的にはまだまだ遠く歩道の整備等市民からも強く要望されている。

また、県道・市道の整備については、歩道整備、未整備改良箇所・老朽橋梁など問題が山積している。

県道・市道の橋梁については、老朽化の調査がほとんど出来ていないのが現状であります。今後調査結果により整備するためにも財源が必要であり国に強く要望します。

○ 課題

地方道の整備の課題は、道路財源の確保である。

国において、道路財源の確保および臨交金の確保は、最重要課題であり、零細財政規模の地方にとっては、無くてはならない財源である。

②-2 地域の目指すべき将来像

香川県三豊市

本市には、北東から南西方向に高松自動車道、国道11号、32号、377号、JR予讃線、土讃線が走っており幹線交通軸を形成しており四国における交通の要衝に接近した恵まれた交通立地条件を有しておる。このような状況の下ではありますが、国道11号においては、豊中から観音寺間において慢性的な渋滞状況にあり早期の四車線化が望まれてきました。

また国道32号線においても、猪の鼻道路整備が望まれてきました。現在早期完成を目指して事業が進められており、完成すれば冬季の交通、災害時の危険箇所の回避など、国道をはじめ県道、市道に至るまで市民生活にとって一層安全で便利な道路網・道路環境の整備を進めていくことが必要であります。

今後は、橋梁の老朽化調査をはじめ、歩道の整備、環境に配慮した道路整備、河川整備を含め国・県道との連携や役割分担、市内の地域間の連携強化等に配慮しながら幹線市道から身近な生活市道に至るまで、市道網の整備を計画的かつ効率的に推進するとともに、市民との協働のもと適正な管理と維持補修に努めなければならないと思っております。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点項目（代表事例、期待する考課や評価等）

香川県三豊市

- 地域活力の向上・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化・少子高齢化に対応した子育て環境、バリアフリー社会
国道11号四車線化、国道32号新猪の鼻トンネルの事業化の開始等国においては早期完成
県道の橋梁部分の架け替え・歩道の整備・未改良部分の早期着手
市道については、合併後の旧町間のアクセス道路網の整備、歩道の整備
- ☆ 道路網の整備は私たちにとって生活に安らぎと潤いをもたらすものであり、欠かすことの出来ない交通手段であります。 市民アンケートにも歩道の整備が強く要望されております。
- ☆ 早急に進む少子化・高齢化・高度情報化など社会構造への間に伴い、安全で安心して生活を確保することは、我々の努めでありこれらを解消するためにも道路整備の果たす役割はより一層重要であります。
- ☆ 本州四国連絡高速道路の抜本的料金引き下げは、現在の社会情勢にとって不可欠であります。